

早瀧比咩神社通信

発行所：早瀧比咩神社
総代会 玉野市滝773番地
不定期発行
編集：葛原

歳旦祭と厄払い祭 長寿お祝いの祭も!!

いあつわい
明けましておめでとう
ございます。新年のご挨拶
が遅れましたが、昨年中
は皆様より宮行事への
ご理解・ご支援とご寄進



早瀧比咩神社・拝殿

を頂き有難うございま
した。本年も相変わりに
す宜しくお願い致します。
早瀧比咩神社総代役員
一同本年もお宮の維持、
管理に努めて参ります。

昨令和元年11月7日に永井区長殿より荒神社返却要望
書(氏子署名簿付)の提出がありました。内容は永井
うづき原地区に立地する荒神社他を早瀧比咩神社に返却
したいとの要望です。今となっては詳しい経緯を調べる
方法はありませんが、これらの神社は文献や石碑に刻ま
れた文字などから明治30年頃、当神社から同地区へ分
社化された 荒(こう)神社と牛頭(ごず)天王宮であ

荒神社返却要望書を受けて

昨年(2019年)は主要行事である
春祭り、夏越祭、秋祭り、
七五三祭などに加えて、
昭和五年に行われた本殿
遷座(せんざ)と拝殿の
新築に対して寄せられた
寄進石碑の傾き修復と素
戔鳴神社前で崩落した石
灯籠の復元や傷んだ向拝
の鈴紐交換などを行いま
した。また満期を迎えた
火災保険を自然災害にも
対応できるように見直しも
行いました。
本年は昨年からうづき
原地区よりの要望事項で
あります荒(こう)神社
と牛頭(ごず)天王宮の
返却・移設問題の解決に
取り組む必要があります。
氏子皆様のご理解とご
ご推察できます。要望書を受け神社役員にてその取扱い
を検討中です。原則的に出所が当社なので受け入れる
のが自然であろうと判断していますが、返却移転にはそ
れなりの手順が必要であり、かつ、多額の移転費用が掛
かると思えます。現在複数の業者に見積をお願いし
ている段階ですが、当社がこれら分社の返却要求をし
たのではなく、要望された側であり、移転費用の殆どは
永井地区に持つて貰うべきではないでしょうか。氏子の
皆様に於かれましてはこの要望をどのように処理するの
が良いのかご意見をお聞かせ下さい。

歳旦祭

支援を宜しくお願い致し
ます。

早瀧比咩神社では元旦
恒例の歳旦祭が取り行わ
れました。昨秋の〆縄用
の新稲藁(いなわら)の
入手から始まり陰干し乾
燥したのち、袴取りを経
て十二月第一日曜日に役
員総出で注連縄(しめな
わ)作りを行いました。



向拝 〆縄飾付け中

年末には向拝の大〆縄を
はじめすべのお社に飾
り付けを行いました。
新年零時から宮司をお

迎えし氏子、役員、及び
地区役員一同の出席の元
恒例の歳旦祭が厳粛に執
り行われました。

歳旦祭は新年を祝い国
の益々の発展を祈ると
もに、氏子崇敬者と地域



鳥居 〆縄

社会の平和と繁栄を祈り
元旦に行われるお祭り
です。

早瀧比咩神社境内では
ご参拝の皆様がなごやか
に新年の祝詞を取り交わ
し、お宮からはお神酒・
甘酒や焼き芋が振舞われ
ました。中には高知県か
ら来宮された親子さんが
参拝されていました。元
旦には初詣ご参拝にそな
え本殿・拝殿を開放して
対応致しました。

厄払いとお祝い

一月三日午後一時から
早瀧比咩神社にて該当す
る年齢に達せられ、希望

された七名の皆様に厄払
いとお祝いの儀式が執り
行われました。

厄年の年齢は、人の一
生の中でも、体力的、家
庭環境的、或は対社会的
にそれぞれ転機を迎える
時でもあり、災厄が起こ
りやすい時期として忌み
慎まれています。その年
に当たっては、神様の御
加護により災厄から身を
護るため、神社に参詣を
して、災厄を祓う厄払い
の儀(厄除け)がおこな
われます。



厄払いとお祝い儀式

厄年の年齢は「数え年」
で数え、地域によって多
少異なるところもありま
すが、男性が二十五歳・
四十二歳・六十一歳、女
性が十九歳・三十三歳・
三十七歳などを言い、こ
の年齢の前後を前厄・後
厄と称します。本来、厄
年は長寿を祝う還暦(六
十一歳)、古稀(七十歳)、
喜寿(七十七歳)、米寿

(八十八歳)、や白寿
(九十九歳)などの年祝
いと同じく、晴れの年齢
と考えられていました。
現在では、災難が多く生
じる面が強調され、その
禁忌の感覚が強くなりま
したが、七五三や成人式、
年祝いなどとともに、人
生における通過儀礼とし
て、大切に考えられてい
ることには変わりありま
せん。

あとがき

毎月最終日曜日には氏
子の皆様のご協力でお宮
掃除の奉仕を頂き、景観
が保たれていて当地区は
勿論、他地区からの来宮
者よりも称賛の声が届い
ています。この度永井地
区から人手不足の理由か
ら荒神社移転要望を受け、
苦慮しています。うづき
原地区の氏子の皆さんに
はなんとか頑張っていた
だき、お守りをつけて下
さるのを希望しています。
どの地区も少子高齢化の
波を止めるのは難しく現
在生活されている皆さんで
できることを協力して行
うことが大切だと感じて
います。(編集子)